

学会主催者に聞く “市民と学会を繋ぐもの”

令和5年10月20日から22日に、博多港国際ターミナルで『全国アマモサミット 2023 in ふくおか』が開催されました。基調講演とパネルのファシリテーターを務められた馬奈木先生にお話を伺いました。

Q1 アマモサミットの基調講演では、「新国富指標*」についてご講演をされました。アマモサミットは、先生の研究にとってどのような機会になりましたか？

サミットに集まる民間企業、行政、そして博多湾と近隣の関係者の皆さんに、海という自然資源の保全活動が、国連が提唱する「新国富指標」により、どう位置づけられ、結果がどう反映されるかを知っていただきたいと思います。SDGsという幅広く、大きな話になってしまいがちですが、「新国富指標」ではアマモ再生など地域の取り組みが数値化され、結果として「国富」「ウェルビーイング」に寄与していることがわかるようになります。

(*2012年に国連が発表した「Inclusive Wealth Index:IWI」SDGsの策定段階から指標の開発に携わっていた馬奈木氏らによって「新国富指標」と名づけられた。具体的には、人工資本、人的資本、自然資本で構成される、経済から環境、健康まで包括的に網羅する指標。)

Q2 第2部では、実際に博多湾周辺で活動されている漁協、企業、そしてNPOの方々より、博多湾を持続可能にするための活動や提案が熱く語られました。その後、先生のファシリテーションにより、課題や今後の展望について議論されましたが、感想をお聞かせください。

最初に、私から回答時間などのルールを決めて、10人の発表者の方たちに10個の質問を投げかけました。私の質問は無視してもよいから、とにかく話し手が聴いている人に伝えたいことを話しやすいように、一方聴いている人たちにも、取り組みを行っている現場の方たちが、次の段階で何が必要かについて伝わる機会になればという思いがありました。双方の満足度が高くなることを重視したことで、ほぼ時間内に皆さんが発表されてよかったです。

Q3 今回のアマモサミットでは、博多湾保全のための具体的な取り組みが紹介されました。持続可能な社会を実現するために、MICE業界である私たち事業者や一般市民ができることは何でしょうか？

イベントと持続可能性というのが注目されています。ヨーロッパでは、サッカーの試合開催においてもオフセットプログラムがしっかりとパッケージされ、ビジネスとして成立しています。主催者には、そうした社会的責任を果たすことが期待されています。また、市民も公共交通機関を使ってイベントに参加する、車を使って参加する人には、カーボンオフセットメニューなどのプログラムを選べるようにする。そのように市民が、持続可能な社会のために何ができるかを考え、そうした需要が大きくなることで社会は変わります。それが肝要です。

Q4 最後に、先生のご研究やご活動において今後目指していращやること、特に一般市民とつながるという観点からお話いただけますか？

世界中の国と地域と企業が、当たり前のように「新国富指標」を使って、それがみんなの「ウェルビーイング」につながるようにすることです。それを数値化していくことがすべてだと思います。いい取り組みが評価される仕組みをつくることは大事だと思うからです。またそれが担保される仕組みとしてNCCC(カーボンクレジット認証機関)とaiESG(包括的なESG分析)という二つを活用してもらえればと思います。

そのためにも、面倒くさいと思う人にも、面白がって取り組んでみようと思ってもらえるようにすることです。面白い取り組みってどう作るか、社会課題はどう解決できるかを考える機会を作っていきたいし、そういう人たちを増やしていきたいと考えながら活動しています。



■馬奈木俊介先生プロフィール

九州大学大学院 都市システム工学講座 主幹教授、都市研究センター長兼ユネスコ 世界生物圏地域計画推進センター長、九州大学総長補佐、国連報告代表執筆者、IPCC代表執筆者。
(一社) ナチュラルキャピタルクレジット コンソーシアム理事長(<https://nccc.earth/>)
(株) aiESG代表取締役(<https://aiesg.co.jp/>)

*新国富指標(Inclusive Wealth)

従来のGDP(国内総生産)では測定ができない価値を、ストック(資産)とフロー(収入・支出)に分けて考えるべきであるとの指摘に対して、国連で新たに提唱された指標。SDGsで目指す持続可能な社会を実現するための目標設定、SDGs達成に向けた成果測定として有効性が期待されている。



馬奈木先生と10名の発表者によるパネルの様子



馬奈木研究室のメンバーのみなさん

▶『全国アマモサミット2023 in ふくおか』

実行委員長 大神 弘太郎

全国アマモサミットは「アマモ」や「アマモ場」を象徴的なキーワードとして、海の自然再生・保全を目指した全国会議です。第15回目となった今年は、産官学民が知恵を出し合い、共に対話・行動・連携をしながら作り上げ、3日間で4,700名のご来場を賜りました。博多湾の魅力と課題の双方に目を向け、自分事として海に関わっている人たちの声を通して、全国に素敵な「福岡らしさ」をお届けすることができました。

詳しくは▶ <https://www.amamo-fukuoka.com/>

